

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場【拡散的思考】	①	小学校で学んだ歴史の内容を復習し、歴史を学ぶ意義について考える。	A ・資料を基に、歴史上の人物に関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・歴史的な見方・考え方を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。									
	②	歴史的な見方・考え方について捉え、追究課題を確認する。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】				B ・資料を基に、歴史上の人物に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・歴史的な見方・考え方を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。						
		追究課題「歴史を最も大きく変えた人物はどれか」 切り口A「聖徳太子」 切り口B「徳川家康」				方法 ○発言の内容(①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容						
考えを広げる場【拡散的思考】	③ 「聖徳太子」が行ったことが、国と人々に及ぼす影響について捉える。		身に付けさせたい知識の例											
	④ 「徳川家康」が行ったことが、国と人々に及ぼす影響について捉える。		歴史を大きく変えることにつながる点(☆)・つながらない点(★)											
	⑤ 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国の立場</th> <th>人々の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>聖徳太子</td> <td>☆遣隋使を派遣したことで、外国の文化や技術を取り入れることができ、その後の日本に影響を与えた。 ★天皇中心の政治になり、それまで支配的立場にいた豪族たちの権力が失われた。</td> <td>☆身分の低い家柄の出身でも、能力があれば政治に参加することができた。 ★役人周辺のきまりなどを定めたとしても、多くの人々の生活は貧しいままであった。</td> </tr> <tr> <td>徳川家康</td> <td>☆それまでの戦国の世を終わらせ、平和な世の中の基礎をつくった。 ★幕府から警戒された、江戸から離れた地域では、不満をもつ大名らがおり、安定しなかった。</td> <td>☆戦国時代が終わり、争いがなくなっていくことで安心した生活を送ることができるようになった。 ★外様大名は江戸から遠いところに配置され、財政的に厳しくなった。</td> </tr> </tbody> </table>				国の立場	人々の立場	聖徳太子	☆遣隋使を派遣したことで、外国の文化や技術を取り入れることができ、その後の日本に影響を与えた。 ★天皇中心の政治になり、それまで支配的立場にいた豪族たちの権力が失われた。	☆身分の低い家柄の出身でも、能力があれば政治に参加することができた。 ★役人周辺のきまりなどを定めたとしても、多くの人々の生活は貧しいままであった。	徳川家康	☆それまでの戦国の世を終わらせ、平和な世の中の基礎をつくった。 ★幕府から警戒された、江戸から離れた地域では、不満をもつ大名らがおり、安定しなかった。	☆戦国時代が終わり、争いがなくなっていくことで安心した生活を送ることができるようになった。 ★外様大名は江戸から遠いところに配置され、財政的に厳しくなった。
		国の立場	人々の立場											
	聖徳太子	☆遣隋使を派遣したことで、外国の文化や技術を取り入れることができ、その後の日本に影響を与えた。 ★天皇中心の政治になり、それまで支配的立場にいた豪族たちの権力が失われた。	☆身分の低い家柄の出身でも、能力があれば政治に参加することができた。 ★役人周辺のきまりなどを定めたとしても、多くの人々の生活は貧しいままであった。											
	徳川家康	☆それまでの戦国の世を終わらせ、平和な世の中の基礎をつくった。 ★幕府から警戒された、江戸から離れた地域では、不満をもつ大名らがおり、安定しなかった。	☆戦国時代が終わり、争いがなくなっていくことで安心した生活を送ることができるようになった。 ★外様大名は江戸から遠いところに配置され、財政的に厳しくなった。											
⑥ 【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】		A ・切り口に関わる社会的事象に及ぼす影響について、国と人々の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。										
		B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。										
		方法 ○発言の内容(③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容										
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑦ 【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、歴史が大きく変わったと言えるか」について考える。【RM①】 概念的知識「国としてのしくみが整い、人々の生活が向上すれば、歴史が大きく変わったと言える」		集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口B「徳川家康」を選んだ生徒の主張例 ・幕府と藩の体制を整えることで、国としてのしくみを整えた。また、戦国の世を終わらせ、平和な世の中を築いたことから、人々の生活が向上した。 切り口B「徳川家康」の主張に対する反論例 ・多くの大名を外様大名として江戸から離れた地域に配置したことで、外様大名とそれらに仕えた人々の生活は苦しくなったのではないか。 切り口B「徳川家康」を選んだ生徒の再反論例 ・外様大名にとっては、江戸から離れ、生活が向上しなくなってしまうかもしれないが、全体的に考えると、平和な世の中が始まり、幕府の領地も広がったことで、生活は向上した。 切り口B「徳川家康」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・関ヶ原の戦いを経て、至る所で戦が行われていた時代が終わり、平和な世の中が始まった。国としては、幕府と藩による政治が行われるようになり、しくみが整っていった。また、戦が起きなくなったことで、安定した生活を送ることができるようになり、向上していった。											
	⑧ 【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。		A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。									
	⑨ 概念的知識を他の時代に当てはめて考える。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】		B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。									
	⑩ 単元テストを行う。		方法 ○発言の内容(⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容									
	⑪ 意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。 【拡・収RM①】【RM②】													

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場【拡散思考】	①	人類の始まりの様子と世界の古代文明について捉える。 日本人のルーツと縄文時代のようすについて捉える。	A ・資料を基に、人類の始まりから弥生時代までのようすに関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	弥生時代の人々のようすを捉える。縄文時代と弥生時代の人々の生活のようすを比較し、追究課題を確認する。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・資料を基に、人類の始まりから弥生時代までのようすに関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
		追究課題「人々の生活が豊かになった最も大きな要因は何か」 切り口A「食の安定」 切り口B「道具の発達」	方法 ○発言の内容(①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容									
考えを広げる場【拡散的思考】	③	「食の安定」が、指導者とむら人に及ぼす影響について捉える。	人々の生活が豊かになることにつながる点(☆)・つながらない点(★)											
	④	「道具の発達」が、指導者とむら人に及ぼす影響について捉える。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>指導者の立場</th> <th>むら人の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食の安定</td> <td>☆米づくりが始まり、力のある人がむらの代表者となり、むらをまとめるようになった。 ☆吉野ヶ里遺跡では、およそ5,400人もの人が生活しており、力のある人が集団をまとめていた。 ★高床倉庫により、米の貯蔵ができるようになったが、争いのもとにもなった。 ★争いが多く起こるようになったことで、むらを安定して治めることができなかった。</td> <td>☆高床倉庫によって稲を保存できるようになり、安定して食糧を確保できるようになった。 ☆農業がさかんに行われるようになり、栄養価の高い食料を得られ、寿命が延びた。 ★むらを治める指導者が現れるようになると、次第に貧富の差ができるようになった。 ★貧富の差から争いが起こるようになり、安心した生活を送ることができなくなってきた。</td> </tr> <tr> <td>道具の発達</td> <td>☆多くの鉄を手に入れるようになり、戦争に優位になることで富を手に入れ、むらを治めやすくなった。 ☆主祭殿のようすから、集落をまとめるための大きな力をもっていたことがわかる。 ★矢じりが大きくなっていることから、争いが起こったときに大きな被害をもたらす可能性がある。 ★物見櫓や柵のようすから、頻繁に争いがあったことがわかる。</td> <td>☆弥生土器の出現により、食糧を貯蔵できるようになった。 ☆布を織る技術があったことから、より丈夫な衣服を着ることが可能になった。 ★鉄器が伝わり、武器や農具として使用されていたため、争いの時の被害が大きかった。 ★主祭殿のようすから、身分の差ができてきたことがわかる。</td> </tr> </tbody> </table>				指導者の立場	むら人の立場	食の安定	☆米づくりが始まり、力のある人がむらの代表者となり、むらをまとめるようになった。 ☆吉野ヶ里遺跡では、およそ5,400人もの人が生活しており、力のある人が集団をまとめていた。 ★高床倉庫により、米の貯蔵ができるようになったが、争いのもとにもなった。 ★争いが多く起こるようになったことで、むらを安定して治めることができなかった。	☆高床倉庫によって稲を保存できるようになり、安定して食糧を確保できるようになった。 ☆農業がさかんに行われるようになり、栄養価の高い食料を得られ、寿命が延びた。 ★むらを治める指導者が現れるようになると、次第に貧富の差ができるようになった。 ★貧富の差から争いが起こるようになり、安心した生活を送ることができなくなってきた。	道具の発達	☆多くの鉄を手に入れるようになり、戦争に優位になることで富を手に入れ、むらを治めやすくなった。 ☆主祭殿のようすから、集落をまとめるための大きな力をもっていたことがわかる。 ★矢じりが大きくなっていることから、争いが起こったときに大きな被害をもたらす可能性がある。 ★物見櫓や柵のようすから、頻繁に争いがあったことがわかる。	☆弥生土器の出現により、食糧を貯蔵できるようになった。 ☆布を織る技術があったことから、より丈夫な衣服を着ることが可能になった。 ★鉄器が伝わり、武器や農具として使用されていたため、争いの時の被害が大きかった。 ★主祭殿のようすから、身分の差ができてきたことがわかる。
		指導者の立場	むら人の立場											
	食の安定	☆米づくりが始まり、力のある人がむらの代表者となり、むらをまとめるようになった。 ☆吉野ヶ里遺跡では、およそ5,400人もの人が生活しており、力のある人が集団をまとめていた。 ★高床倉庫により、米の貯蔵ができるようになったが、争いのもとにもなった。 ★争いが多く起こるようになったことで、むらを安定して治めることができなかった。	☆高床倉庫によって稲を保存できるようになり、安定して食糧を確保できるようになった。 ☆農業がさかんに行われるようになり、栄養価の高い食料を得られ、寿命が延びた。 ★むらを治める指導者が現れるようになると、次第に貧富の差ができるようになった。 ★貧富の差から争いが起こるようになり、安心した生活を送ることができなくなってきた。											
	道具の発達	☆多くの鉄を手に入れるようになり、戦争に優位になることで富を手に入れ、むらを治めやすくなった。 ☆主祭殿のようすから、集落をまとめるための大きな力をもっていたことがわかる。 ★矢じりが大きくなっていることから、争いが起こったときに大きな被害をもたらす可能性がある。 ★物見櫓や柵のようすから、頻繁に争いがあったことがわかる。	☆弥生土器の出現により、食糧を貯蔵できるようになった。 ☆布を織る技術があったことから、より丈夫な衣服を着ることが可能になった。 ★鉄器が伝わり、武器や農具として使用されていたため、争いの時の被害が大きかった。 ★主祭殿のようすから、身分の差ができてきたことがわかる。											
	⑤	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	A	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、指導者とむら人の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
⑥	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	B	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
		方法	○発言の内容(③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容									
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑦	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、人々の生活が豊かになるか」について考える。【RM①】 概念的知識「指導者が集団をまとめ、むら人の生活が安定すれば、人々の生活は豊かになる」	切り口B「道具の発達」を選んだ生徒の主張例 ・指導者は、多くの鉄を手に入れたり、むらを形成することで権力を示した。これにより集団をまとめることができるようになった。また、むら人は、弥生土器や鉄器が使用できるようになり、食糧を貯蔵したり、安定した生活を送ることができるようになった。 切り口B「道具の発達」の主張に対する反論例 ・土器や鉄器などで食糧を貯蔵できるようになったとしても、そもそも農業が発達しなければ意味がない。そのため、豊かになったとは言えない。 切り口B「道具の発達」を選んだ生徒の再反論例 ・農業の発達は大事なことだが、収穫したものを長期間保存したり、外部の敵から守られるようにならなければ、生活を維持することはできない。 切り口B「道具の発達」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Aは、米づくりが始まったことで、生活を豊かにする要素となったかもしれないが、指導者が集団をまとめる要素とはならない。それに比べて切り口Bは、弥生土器により食糧を長期保存できるようになったり、鉄器の使用により、外部の敵からの侵入に備えられるようになった。それが指導者が集団をまとめることにもつながった。そして、食糧の長期保存だったり、布を織る技術の発達により、様々な気候に対応できるようになり、人々の生活が安定した。このことにより、人々の生活は豊かになったと言える。											
	⑧	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	A	・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑨	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】 単元テストを行う。	B	・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑩	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。 【拡・収RM①】【RM②】	方法	○発言の内容(⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容								

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場【拡散的思考】	①	飛鳥時代と奈良時代のような年表にまとめ、時代を大観する。	A ・資料を基に、飛鳥時代から奈良時代までのようすに関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	聖徳太子と聖武天皇が行ったことから、時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・資料を基に、飛鳥時代から奈良時代までのようすに関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
		追究課題「国がまとまるために最も大きな影響を与えたものは何か」 切り口A「仏教」 切り口B「法」	方法 ○発言の内容(①) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(②) ○「ステップチャート」の記述内容									
考えを広げる場【拡散的思考】	③	「仏教」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	国がまとまることにつながる点(☆)・つながらない点(★)											
	④	「法」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>為政者の立場</th> <th>民衆の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仏教</td> <td>☆仏教を利用することによって、政治や社会の安定を図ることにつながった。 ☆民衆に人気のある行基を利用し、大仏づくりにつなげ、仏教の力で権力を示した。 ★仏教導入をめぐる、蘇我氏と物部氏が対立し、政治が不安定になった。 ★道鏡が天皇から厚く信頼されて出世したことで、僧が政治に介入するようになった。</td> <td>☆仏教により恐れが取り除かれ、安心して生活できるようになった。 ☆僧になることで、税を納めずに済み、生活が苦しくならなかった。 ★何度も都を移され、その度に労働を課せられたため、生活が苦しくなった。 ★全国各地に寺を作ったり、大仏を作ったりすることで、多くの労働を課せられた。</td> </tr> <tr> <td>法</td> <td>☆冠位十二階の制度により、能力に応じて仕事が任せられ、政治が安定した。 ☆墾田永年私財法により、税を安定して徴収できるようになった。 ★農民が有力な貴族や寺社の荘園に移るようになり、安定して税を徴収できなくなった。 ★朝廷内での権力争いから、国内の政治が乱れるようになった。</td> <td>☆冠位十二階の制度により、能力によって役人に取り立てられるので、労働意欲が出た。 ☆五刑八虐が定められ、治安がよくなることで安心して生活できるようになった。 ★飢えや税負担から、過酷な環境で苦しい生活を送らなければならなかった。 ★防人の制度や納税制度により、生活が苦しくなった。</td> </tr> </tbody> </table>				為政者の立場	民衆の立場	仏教	☆仏教を利用することによって、政治や社会の安定を図ることにつながった。 ☆民衆に人気のある行基を利用し、大仏づくりにつなげ、仏教の力で権力を示した。 ★仏教導入をめぐる、蘇我氏と物部氏が対立し、政治が不安定になった。 ★道鏡が天皇から厚く信頼されて出世したことで、僧が政治に介入するようになった。	☆仏教により恐れが取り除かれ、安心して生活できるようになった。 ☆僧になることで、税を納めずに済み、生活が苦しくならなかった。 ★何度も都を移され、その度に労働を課せられたため、生活が苦しくなった。 ★全国各地に寺を作ったり、大仏を作ったりすることで、多くの労働を課せられた。	法	☆冠位十二階の制度により、能力に応じて仕事が任せられ、政治が安定した。 ☆墾田永年私財法により、税を安定して徴収できるようになった。 ★農民が有力な貴族や寺社の荘園に移るようになり、安定して税を徴収できなくなった。 ★朝廷内での権力争いから、国内の政治が乱れるようになった。	☆冠位十二階の制度により、能力によって役人に取り立てられるので、労働意欲が出た。 ☆五刑八虐が定められ、治安がよくなることで安心して生活できるようになった。 ★飢えや税負担から、過酷な環境で苦しい生活を送らなければならなかった。 ★防人の制度や納税制度により、生活が苦しくなった。
		為政者の立場	民衆の立場											
	仏教	☆仏教を利用することによって、政治や社会の安定を図ることにつながった。 ☆民衆に人気のある行基を利用し、大仏づくりにつなげ、仏教の力で権力を示した。 ★仏教導入をめぐる、蘇我氏と物部氏が対立し、政治が不安定になった。 ★道鏡が天皇から厚く信頼されて出世したことで、僧が政治に介入するようになった。	☆仏教により恐れが取り除かれ、安心して生活できるようになった。 ☆僧になることで、税を納めずに済み、生活が苦しくならなかった。 ★何度も都を移され、その度に労働を課せられたため、生活が苦しくなった。 ★全国各地に寺を作ったり、大仏を作ったりすることで、多くの労働を課せられた。											
	法	☆冠位十二階の制度により、能力に応じて仕事が任せられ、政治が安定した。 ☆墾田永年私財法により、税を安定して徴収できるようになった。 ★農民が有力な貴族や寺社の荘園に移るようになり、安定して税を徴収できなくなった。 ★朝廷内での権力争いから、国内の政治が乱れるようになった。	☆冠位十二階の制度により、能力によって役人に取り立てられるので、労働意欲が出た。 ☆五刑八虐が定められ、治安がよくなることで安心して生活できるようになった。 ★飢えや税負担から、過酷な環境で苦しい生活を送らなければならなかった。 ★防人の制度や納税制度により、生活が苦しくなった。											
	⑤	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、為政者と民衆の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立つて資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
⑥	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。										
		方法 ○発言の内容(③・④) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑤・⑥) ○「ステップチャート」の記述内容										
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑦	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、国がまとまるか」について考える。【RM①】	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口A「仏教」を選んだ生徒の主張例 ・為政者は、仏教というすべての人に共通のものを示すことで、政治や社会の安定を図ることにつながる事ができた。また、民衆にとっても、恐れを取り除いてもらったり、安らかな心を得たりすることで、安心して生活を送ることができた。 切り口A「仏教」の主張に対する反論例 ・仏教という信じるものがあっても、実際に直接生活をよくしたり、治安がよくなったわけではない。 切り口A「仏教」を選んだ生徒の再反論例 ・直接の影響があったわけではないかもしれないが、為政者にとっても民衆にとっても共通の信じるものがあることで、国がまとまることにつながる。 切り口A「仏教」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、法を定めることで、共通のルールで民衆をまとめることにつながる事ができるかもしれないが、当時の法は民衆の生活を苦しめるものであった。また、有力な貴族も現れるようになり、政権内での権力争いにもつながる。それに比べて切り口Aは、仏教の力で民衆の心に安らぎを与え、政治の安定にもつながることができた。また、民衆はお寺や大仏など、目に見えるもので仏教の力を信じ、安心して生活を送ることにつながる事ができた。											
	⑧	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。												
	⑨	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	⑩	単元テストを行う。	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	⑪	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法 ○発言の内容(⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑦・⑧) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容									

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場 【拡散的思考】	①	平安時代のような年表にまとめ、時代を大観する。	A ・資料を基に、平安時代のような政治体制に関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとする。また、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	平安時代の政治体制の変化を捉え、摂関政治、院政、平氏政権について調べる。												
	③	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】												
考えを広げる場 【拡散的思考】		追究課題「武士の地位が向上した最も大きな要因は何か」 切り口A「中央の乱れ」 切り口B「地方の乱れ」	方法	○発言の内容 (①・②) ●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (③) ○「ステップチャート」の記述内容									
	④	「中央の乱れ」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	武士の地位向上につながる点(☆)・つながらない点(★)											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>為政者の立場</th> <th>民衆の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央の乱れ</td> <td>☆保元・平治の乱では、上皇と天皇の権力争いが起き、武士の力を頼って争った。 ☆僧兵の強訴から院を守るため北面の武士が置かれたことにより、武士の力を頼りにした。 ★菅原道真の左遷など他氏排斥は藤原氏が権力を握っていく過程において、武士の力を頼る必要はなかった。 ★藤原氏と外戚関係をもたない後三条天皇は荘園を整理するなど権力を強め武士の力に頼らず、政治を行った。</td> <td>☆治安の悪化により、貴族の屋敷を警護するようになり、自立していく。 ☆平安京の治安維持のために置いた検非違使が力を持ち自立していく。 ★寄進地系荘園の増加は、寺社や貴族に守られ、民衆が自立しているとは言えない。 ★院の知行国制度により、民衆は争って天皇家や院への寄進をしているので、自立しているとは言えない。</td> </tr> <tr> <td>地方の乱れ</td> <td>☆承平・天慶の乱に対して、武士の力を頼りにすることで、乱を治めることができた。 ☆平忠常の乱では追討使に任じられた源頼信が乱を鎮圧することで、武士の力を頼りにした。 ★後三年合戦では、源義家らの活躍があったが、白河上皇は武士の力の増大を恐れたため恩賞を与えず武士の力を認めなかった。 ★国司の中には、富を得ることや藤原氏に気に入られることに懸命で政治に関心がなく武士の力を頼る必要がなかった。</td> <td>☆地方の乱れにより山賊や海賊が横行し、治安が悪化することで民衆が武装し自立する。 ☆土地の所有をめぐる争いが頻繁に起き、自分の土地を守るために民衆が自立し、武装化する。 ★尾張国国司藤原元命の訴状から民衆は正政や苛政を強いられ自立を阻むことになる。 ★国司の正政に対して、関東では平将門が乱を起こしたが、朝廷の討伐軍によって抑えられ自立することはできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>				為政者の立場	民衆の立場	中央の乱れ	☆保元・平治の乱では、上皇と天皇の権力争いが起き、武士の力を頼って争った。 ☆僧兵の強訴から院を守るため北面の武士が置かれたことにより、武士の力を頼りにした。 ★菅原道真の左遷など他氏排斥は藤原氏が権力を握っていく過程において、武士の力を頼る必要はなかった。 ★藤原氏と外戚関係をもたない後三条天皇は荘園を整理するなど権力を強め武士の力に頼らず、政治を行った。	☆治安の悪化により、貴族の屋敷を警護するようになり、自立していく。 ☆平安京の治安維持のために置いた検非違使が力を持ち自立していく。 ★寄進地系荘園の増加は、寺社や貴族に守られ、民衆が自立しているとは言えない。 ★院の知行国制度により、民衆は争って天皇家や院への寄進をしているので、自立しているとは言えない。	地方の乱れ	☆承平・天慶の乱に対して、武士の力を頼りにすることで、乱を治めることができた。 ☆平忠常の乱では追討使に任じられた源頼信が乱を鎮圧することで、武士の力を頼りにした。 ★後三年合戦では、源義家らの活躍があったが、白河上皇は武士の力の増大を恐れたため恩賞を与えず武士の力を認めなかった。 ★国司の中には、富を得ることや藤原氏に気に入られることに懸命で政治に関心がなく武士の力を頼る必要がなかった。	☆地方の乱れにより山賊や海賊が横行し、治安が悪化することで民衆が武装し自立する。 ☆土地の所有をめぐる争いが頻繁に起き、自分の土地を守るために民衆が自立し、武装化する。 ★尾張国国司藤原元命の訴状から民衆は正政や苛政を強いられ自立を阻むことになる。 ★国司の正政に対して、関東では平将門が乱を起こしたが、朝廷の討伐軍によって抑えられ自立することはできなかった。
		為政者の立場	民衆の立場											
	中央の乱れ	☆保元・平治の乱では、上皇と天皇の権力争いが起き、武士の力を頼って争った。 ☆僧兵の強訴から院を守るため北面の武士が置かれたことにより、武士の力を頼りにした。 ★菅原道真の左遷など他氏排斥は藤原氏が権力を握っていく過程において、武士の力を頼る必要はなかった。 ★藤原氏と外戚関係をもたない後三条天皇は荘園を整理するなど権力を強め武士の力に頼らず、政治を行った。	☆治安の悪化により、貴族の屋敷を警護するようになり、自立していく。 ☆平安京の治安維持のために置いた検非違使が力を持ち自立していく。 ★寄進地系荘園の増加は、寺社や貴族に守られ、民衆が自立しているとは言えない。 ★院の知行国制度により、民衆は争って天皇家や院への寄進をしているので、自立しているとは言えない。											
	地方の乱れ	☆承平・天慶の乱に対して、武士の力を頼りにすることで、乱を治めることができた。 ☆平忠常の乱では追討使に任じられた源頼信が乱を鎮圧することで、武士の力を頼りにした。 ★後三年合戦では、源義家らの活躍があったが、白河上皇は武士の力の増大を恐れたため恩賞を与えず武士の力を認めなかった。 ★国司の中には、富を得ることや藤原氏に気に入られることに懸命で政治に関心がなく武士の力を頼る必要がなかった。	☆地方の乱れにより山賊や海賊が横行し、治安が悪化することで民衆が武装し自立する。 ☆土地の所有をめぐる争いが頻繁に起き、自分の土地を守るために民衆が自立し、武装化する。 ★尾張国国司藤原元命の訴状から民衆は正政や苛政を強いられ自立を阻むことになる。 ★国司の正政に対して、関東では平将門が乱を起こしたが、朝廷の討伐軍によって抑えられ自立することはできなかった。											
	⑤	「地方の乱れ」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	A	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、為政者と民衆の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする。また、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
⑥	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	B	・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする。また、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
⑦	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	方法	○発言の内容 (④・⑤) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容 (⑥・⑦) ○「ステップチャート」の記述内容									
考えを創り上げる場 【収束的思考】	⑧	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、武士の地位は向上するか」について考える。【RM①】 概念的知識「為政者に頼りにされて、民衆が自立することができれば、武士の地位は向上する」	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口A「中央の乱れ」を選んだ生徒の主張例 ・為政者は、上皇と天皇の権力争いによって生じた保元・平治の乱に、有力な武士の力を頼ることで、勝つことができた。また、民衆は、治安の悪化に伴い、貴族の屋敷を警護するようになることで、自立していくようになった。 切り口A「中央の乱れ」の主張に対する反論例 ・為政者は、保元・平治の乱で武士を頼りにしたとあるが、木曾義仲のように宮中の知識や教養がなく横暴な武士を信用していなかったのではないか。 切り口A「中央の乱れ」を選んだ生徒の再反論例 ・横暴を働いていた木曾義仲を途中で見限り源頼朝に討たせたり、平清盛を武士で初めて太政大臣に任命したりするなど武士の力を信用し頼りにしていたといえる。 切り口A「中央の乱れ」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、為政者である国司は、富を得ることや藤原氏に気に入られることに懸命で、国が乱れようとも政治に関心がなく武士の力を頼ろうとはしていなかった。また、関東では平将門が乱を起こしたが、朝廷の討伐軍によって抑えられ自立することはできなかった。それに比べ、切り口Aは、為政者である後白河天皇は保元・平治の乱において、武士である平清盛を頼って勝つことができ、その清盛に対して太政大臣に任命していることから頼りにしていることが分かる。また、民衆は、貴族の屋敷を警護するようになることで、力をもつようになり自立していった。											
	⑨	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	A	・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする。また、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑩	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】 単元テストを行う。	B	・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする。また、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。								
	⑪	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法	○発言の内容 (⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容 (⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容									

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度									
考えをもつ場【拡散的思考】	①	鎌倉時代のような年表にまとめ、時代を大観する。	A ・資料を基に、鎌倉時代・室町時代のようすに関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	②	室町時代のような年表にまとめ、時代を大観する。												
	③	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	B ・資料を基に、鎌倉時代・室町時代のようすに関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
考えを広げる場【拡散的思考】		追究課題「下剋上の世につながった最も大きな要因は何か」 切り口A「鎌倉幕府の政治」 切り口B「室町幕府の政治」※ただし応仁の乱以降は含まないものとする	方法 ○発言の内容(①・②) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(③) ○「ステップチャート」の記述内容									
	④	「鎌倉幕府の政治」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	下剋上の世の中につながる点(☆)・つながらない点(★)											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>為政者の立場</th> <th>民衆の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鎌倉幕府の政治</td> <td> ☆元寇後に、御家人に恩賞を与えることができず、不満が高まり、幕府を支える御家人制度が揺らぎ始めた。 ☆幕府の政治に従わない悪党に対して有効な対策をとることができず、幕府の権力が低下した。 ★将軍は御家人と御恩と奉公という強い主従関係を結び、幕府の権力は安定していた。 ★承久の乱で後鳥羽上皇に勝利し、さらに朝廷や西国の監視のための六波羅探題を設置することで、権力を高めた。 </td> <td> ☆幕府と朝廷の二重支配によって、税を多く負担しなければならず、農民の生活が苦しく不満を高めた。 ☆生活が困窮する御家人に対する救済措置として出された永仁の徳政令は、かえって世の中の混乱を招いてしまい幕府への信頼は失われた。 ★全国に守護・地頭が設置されたことにより、治安が守られ、幕府に信頼を置いた。 ★農業の技術の向上により生産が増大して、生活が安定した。 </td> </tr> <tr> <td>室町幕府の政治</td> <td> ☆南朝、北朝に分かれ60年近く対立し、全国的な動乱を招いたことにより、幕府の権力が低下した。 ☆守護大名の力が高まり、将軍が暗殺や追放されるなど幕府の権力が低下した。 ★幕府は明との勘合貿易によって大きな利益を得ることで、財源を潤わして権力を高めた。 ★義満は守護大名を肅正することで、統制をはかり権力を安定させた。 </td> <td> ☆村の自治組織である惣が形成され、無理な年貢の取り立てに対して、農民がまとめて為政者に交渉するようになった。 ☆幕府への不満や借金苦に耐えかねた農民が正長の土一揆を起こし、酒屋や土倉をおそった。 ★馬借や問丸によって陸上・会場運送が発展し、年貢や商品の運送が楽になり、生活が向上した。 ★貨幣を使う頻度が増え、商業が活発化することで、生活が向上した。 </td> </tr> </tbody> </table>				為政者の立場	民衆の立場	鎌倉幕府の政治	☆元寇後に、御家人に恩賞を与えることができず、不満が高まり、幕府を支える御家人制度が揺らぎ始めた。 ☆幕府の政治に従わない悪党に対して有効な対策をとることができず、幕府の権力が低下した。 ★将軍は御家人と御恩と奉公という強い主従関係を結び、幕府の権力は安定していた。 ★承久の乱で後鳥羽上皇に勝利し、さらに朝廷や西国の監視のための六波羅探題を設置することで、権力を高めた。	☆幕府と朝廷の二重支配によって、税を多く負担しなければならず、農民の生活が苦しく不満を高めた。 ☆生活が困窮する御家人に対する救済措置として出された永仁の徳政令は、かえって世の中の混乱を招いてしまい幕府への信頼は失われた。 ★全国に守護・地頭が設置されたことにより、治安が守られ、幕府に信頼を置いた。 ★農業の技術の向上により生産が増大して、生活が安定した。	室町幕府の政治	☆南朝、北朝に分かれ60年近く対立し、全国的な動乱を招いたことにより、幕府の権力が低下した。 ☆守護大名の力が高まり、将軍が暗殺や追放されるなど幕府の権力が低下した。 ★幕府は明との勘合貿易によって大きな利益を得ることで、財源を潤わして権力を高めた。 ★義満は守護大名を肅正することで、統制をはかり権力を安定させた。	☆村の自治組織である惣が形成され、無理な年貢の取り立てに対して、農民がまとめて為政者に交渉するようになった。 ☆幕府への不満や借金苦に耐えかねた農民が正長の土一揆を起こし、酒屋や土倉をおそった。 ★馬借や問丸によって陸上・会場運送が発展し、年貢や商品の運送が楽になり、生活が向上した。 ★貨幣を使う頻度が増え、商業が活発化することで、生活が向上した。
		為政者の立場	民衆の立場											
	鎌倉幕府の政治	☆元寇後に、御家人に恩賞を与えることができず、不満が高まり、幕府を支える御家人制度が揺らぎ始めた。 ☆幕府の政治に従わない悪党に対して有効な対策をとることができず、幕府の権力が低下した。 ★将軍は御家人と御恩と奉公という強い主従関係を結び、幕府の権力は安定していた。 ★承久の乱で後鳥羽上皇に勝利し、さらに朝廷や西国の監視のための六波羅探題を設置することで、権力を高めた。	☆幕府と朝廷の二重支配によって、税を多く負担しなければならず、農民の生活が苦しく不満を高めた。 ☆生活が困窮する御家人に対する救済措置として出された永仁の徳政令は、かえって世の中の混乱を招いてしまい幕府への信頼は失われた。 ★全国に守護・地頭が設置されたことにより、治安が守られ、幕府に信頼を置いた。 ★農業の技術の向上により生産が増大して、生活が安定した。											
	室町幕府の政治	☆南朝、北朝に分かれ60年近く対立し、全国的な動乱を招いたことにより、幕府の権力が低下した。 ☆守護大名の力が高まり、将軍が暗殺や追放されるなど幕府の権力が低下した。 ★幕府は明との勘合貿易によって大きな利益を得ることで、財源を潤わして権力を高めた。 ★義満は守護大名を肅正することで、統制をはかり権力を安定させた。	☆村の自治組織である惣が形成され、無理な年貢の取り立てに対して、農民がまとめて為政者に交渉するようになった。 ☆幕府への不満や借金苦に耐えかねた農民が正長の土一揆を起こし、酒屋や土倉をおそった。 ★馬借や問丸によって陸上・会場運送が発展し、年貢や商品の運送が楽になり、生活が向上した。 ★貨幣を使う頻度が増え、商業が活発化することで、生活が向上した。											
	⑤	「室町幕府の政治」が、為政者と民衆に及ぼす影響について捉える。	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について、為政者と民衆の立場ごとに整理して理解している。	・追究課題について、振り分けられた立場に立って資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
⑥	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	B ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。										
		方法 ○発言の内容(④・⑤) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑥・⑦) ○「ステップチャート」の記述内容										
⑦	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】	A ・切り口に関わる社会的事象が及ぼす影響について理解している。	・追究課題について、資料を基に切り口を比較した上で意思決定している。	・切り口に関わる社会的事象について捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。										
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑧	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、世の中は安定するか」について考える。【RM①】	集団の討論で予想される生徒の発言例 切り口A「鎌倉幕府の政治」を選んだ生徒の主張例 ・為政者は、元寇後に御家人に十分な恩賞を与えることができず、不満が高まることで御家人制度が揺らぎ、権力が低下した。また、生活が困窮する御家人に対する救済措置として出された永仁の徳政令は、かえって世の中の混乱を招いてしまい幕府への信頼は失われた。 切り口A「鎌倉幕府の政治」の主張に対する反論例 ・御家人制度が揺らぎ権力が低下したとあるが、為政者である北条氏は有力御家人を排斥し守護を自分の一族で独占していることから、むしろ権力を集中させており権力の低下は見られなかった。 切り口A「鎌倉幕府の政治」を選んだ生徒の再反論例 ・北条氏が守護を独占したことに対する御家人の不満が高まるとともに、幕府政治に不満をもつ悪党の出現に有効な対策をとれず、幕府の求心力は下がり、権力は低下していった。 切り口A「鎌倉幕府の政治」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Bは、為政者である足利義満は勘合貿易で利益を得て幕府の財源を潤したり、守護大名を肅正することで統制をはかっていたりすることで権力を安定させた。また、民衆は、交通網の発展や貨幣経済の発達により民衆の生活が向上し幕府への信頼が高まった。それに比べ、切り口Aは、元寇後に御家人制度が揺らぐとともに、北条氏の守護独占が御家人の反発を招き、幕府政治に不満をもつ悪党の出現を許してしまい幕府の権力は低下した。また、生活が困窮する御家人に対する救済措置として出された永仁の徳政令は、かえって世の中を混乱させてしまい、幕府への信頼は失われた。											
	⑨	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	A ・概念的知識を社会的事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
	⑩	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	B ・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直ししながら意思決定しようとしている。									
		単元テストを行う。	方法 ○発言の内容(⑩) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑧・⑨) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容									
⑪	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】													